

ヨコハマ市民まち普請事業

第一次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

| | |
|--|--|
| 提案グループ名 (25字以内) | ぐるーぷ・ちえのわ事業検討委員会 |
| 現在の主な活動 内容・活動実績 | <p>障害のある人もない人も共に、生き生きと楽しい活動が出来るようにとの願いから、1987年より小雀町を中心とする地域でキャンプや遊びの集いなどの活動を行ってきた。2006年より民家を借りて「ちえのわホーム」を立ち上げ、現在、同敷地内の4軒（間取り2K）のホームで次の活動を行っている。</p> <p>① 個別支援が必要な子ども達、不登校の子ども達への学習支援、相談活動 ② 障害のある子ども・若者達の生涯学習・余暇支援活動「ちえのわサロン」 ③ 染色、織物、陶芸等を体験する「アトリエ十色」等でのアート活動 ④ 「ちえのわまつり」等のイベントやケアプラザと共催の「学習会」の開催</p> <p><活動実績>上記のような30年に亘る障害者の生涯学習支援活動が評価され、2018年12月に文部科学大臣表彰を受賞。</p> |
| 提案場所 | 戸塚区小雀町 |
| 提案名 (25字以内) | 車椅子でもOK！だれでも集える多目的交流スペース |
| 提案する施設 (どのような施設の提案ですか) | <p>敷地内入口側に建つ1軒（間取り2K）を新たに借りて次の改修整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○敷地の入口から室内に至る通路のバリアフリー化 ○車椅子でも室内移動が自由にできるよう、段差の無いワンフロアへの改修 ○車椅子用トイレの設置 ○カフェが出来るキッチンの整備 ○大きな窓の設置と広いスペースの確保、サンルームの設置等 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500 万円</p> |
| 活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか) | <p>既存のホームと連携しつつ、障害のある子どもだけでなく地域の高齢者を含む誰もが憩い集える「地域の居場所」としての活動を行う。</p> <p>①高齢者や車椅子利用者等も含めて地域の方が気軽に訪れ、音楽やゲームを楽しんだり、世代間交流を行うことができる「カフェの日」活動。 ②アート体験や健康づくり活動なども取り入れた高齢者の介護予防に役立つサロンの開催（横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業を申請予定）。 ③地域の方が自由に使える活動スペースとして、空き時間の貸室利用。 ④「ちえのわサロン」等、既存ホームでの活動の拡充実施。</p> |
| 提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください） | <p>小雀町は、山坂の多い広域な地域で、交通の便も悪い。又、区内でも高齢化率や一人暮らしの高齢者の割合が高い地域でもある。その為、元気なうちから孤立しないような繋がりづくりや、介護予防に係る活動の場が必要とされているが、公的市民施設が身近に少ないため、歩いて行ける場所に誰でも立ち寄り、気軽に利用できる場が求められてきた。幸い、ちえのわホームは、バス停や医院から近い平坦地にあり、誰でも立ち寄り易い場所にある。現在、ここで行われている草木染や陶芸などの活動には、高齢者や中途障害者の方も参加されている。だが、入口の勾配が急で車椅子が自力では登れず、また車椅子用トイレが無いため不自由な思いをされている方も多い。</p> <p>そこで、新たなホームに車椅子利用者に対応した設備やカフェ機能等を設</p> |

| | |
|---|--|
| | け、健康づくりをはじめとしたプログラムを充実させることで、地域の高齢者や障害のある方にとっても、気軽に利用できる有意義な場になると考えた。さらには、既存ホームの活動との相互交流により、ちえのわホーム全体として子ども、障害者からお年寄りまでが様々な活動を楽しめる居場所となり、多世代、多分野の活動の出会い・ふれあいの場へと発展することが期待される。また、活動スペースが広がることで、感染予防対策の「密を避けた活動」を行うことができる。 |
| 目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか） | ぐる一ふ・ちえのわの活動は、30年余り前から小雀町を含む大正地区の多くの方たちに支えられてきた。その方たちの高齢期における介護予防活動や趣味の活動等を通じた繋がりづくりに、新しく改修整備するホームが貢献できればと思う。今後も、ちえのわホームが持つ機能やスペースを活かし、関係機関と連携しながら、支援を必要としている子ども達、親御さんたち、高齢者の方たちに寄り添い、支え合える、温かな地域社会をめざしたい。 また、新たにできる活動スペースを地域の方々、特に若い世代にも利用していただき、若い人の発想を活かした新しい活動の芽を育てていくことで、この地域から多彩な魅力を発信する一助としたい。 さらには、ちえのわホームの周辺は造園業者の豊かな緑に囲まれた、のどかな落ち着いた環境であり、敷地の前には借りている畑もあり、野菜の収穫や四季の花々を楽しむこともできる。小雀の豊かな自然環境を生かした改修整備を行うことで、子ども達にも町の魅力を更に発信していきたい。 |
| 整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください） | ○リフォームのアイデアや設計等を相談出来るスタッフや友人がいる。地元の造園業や建設業の方で、リフォーム工事をお願い出来る方がいる。 ○区・地区社会福祉協議会や地域ケアプラザより、障害のある方や高齢の方でも安心して集える施設・設備について、指導助言を頂くことができる。 ○ちえのわの活動に参加している若者、保護者、地域の有志の方達の中で、バザーによる資金集めや、作業面での協力をお願い出来る方がいる。 |
| 運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください） | ○ちえのわのスタッフ、ボランティア、合わせて約20名。活動内容に合わせて協働体制をとることができる。 ○グループ・ちえのわを運営するNPO法人の設立を予定している。 ○地域に絵手紙や折り紙、けん玉等ワークショップ指導を頼める方がいる。 ○小雀町内会、原宿地域ケアプラザ、戸塚区区民活動センター等と連携し、ボランティアや参加者の輪を広げることができる。 ○活動内容に対して、戸塚区社会福祉協議会や近隣の介護老人保健施設や、特別支援学校等から必要に応じて指導助言を得ることができる。 |
| その他提案について特にPRしたい点を記入してください。 | 小雀の地域の方に支えられて30年余り、この地域で活動を行ってきた私達ぐる一ふ・ちえのわにとって、この提案は、小雀地域への恩返しのような思いでもある。家に閉じこもりがちな高齢の方も、車椅子の方も、安心して来られるような場にと、一日も早い改修整備を願わずにはいられない。 「車椅子でも大丈夫！」と誰でも集える新しいホームの実現は、コロナ禍で孤立しがちな私達に、新しいつながり方の知恵も授けてくれるように思う。 |

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

| 整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況 | |
|---|---------------------|
| 説明の相手方 | 相手方の意見等 |
| 借家の大家さん | 申請や改修整備について賛同いただいた。 |

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

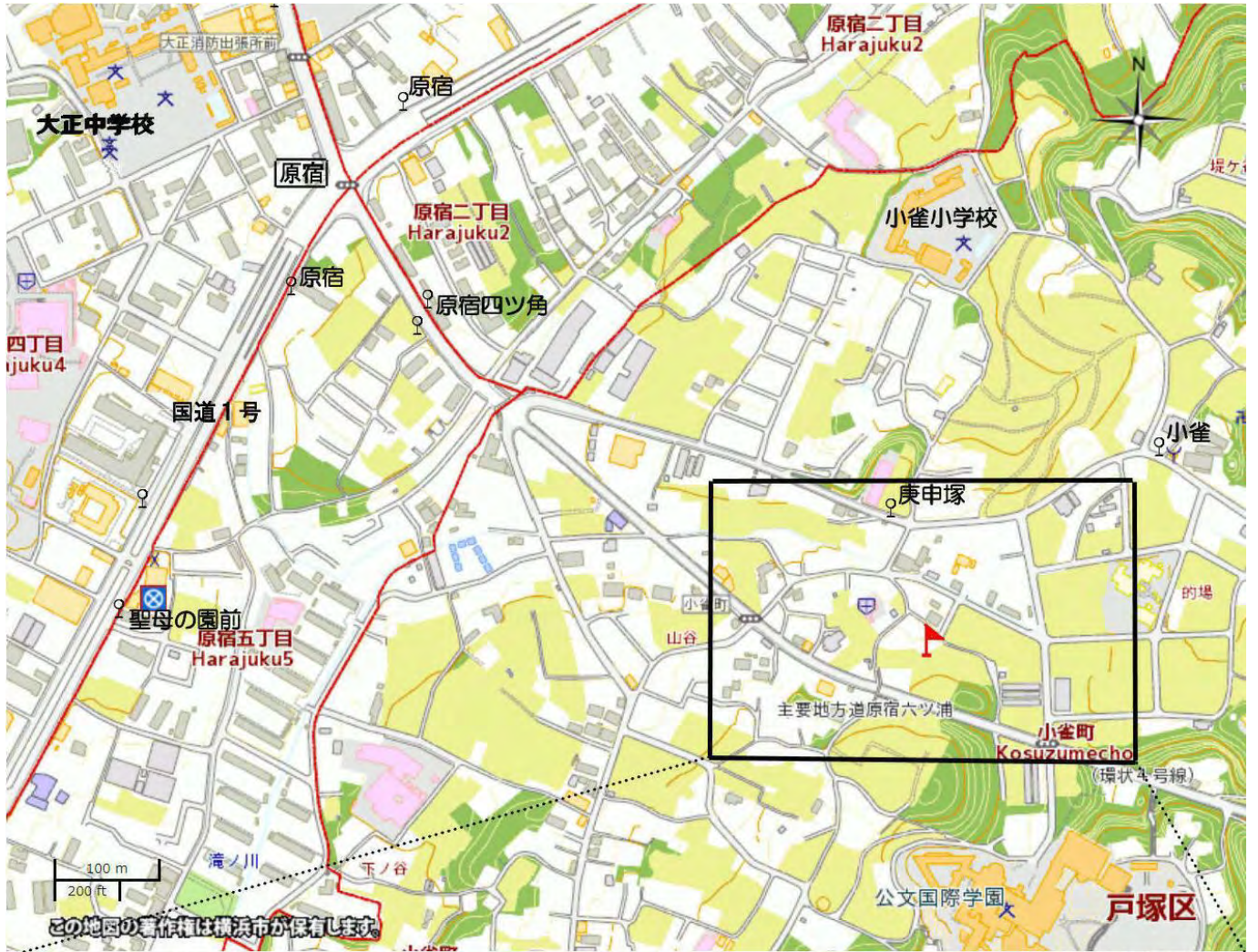
記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図

ぐるーぷ・ちえのわ

(戸塚区区民生活マップ一部加筆)



現況写真

ぐるーぷ・ちえのわ拠点「ちえのわホーム」入口 左側本事業改修予定建物



同建物内部 1



同建物外観玄関側



同建物内部 2

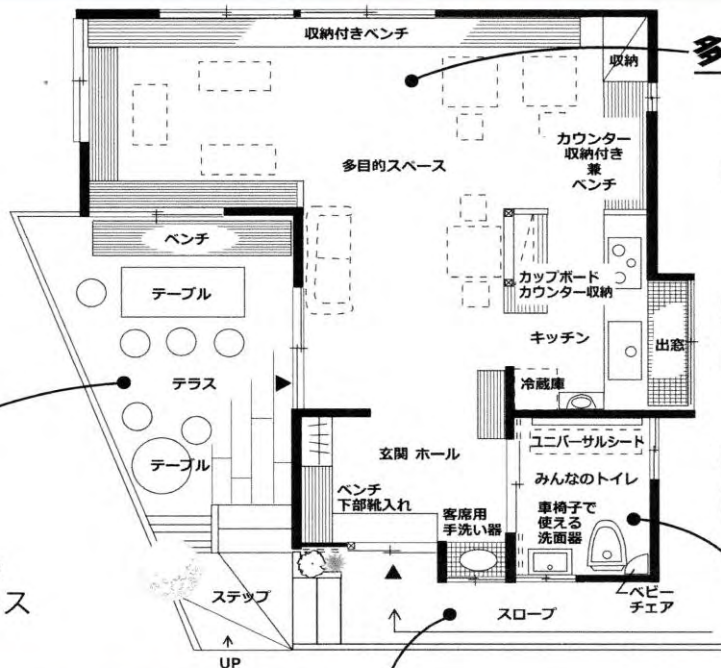


車椅子でも OK!

だれでも使える

地域の居場所

多目的交流スペース



多目的スペース

段差のないフローア

■ワークショップ

染め、織り、陶芸
クラフト、調理

■カフェの日

■サロンの日

高齢者介護予防

■小さな集まり(貸室利用)

■カレー ya 十色

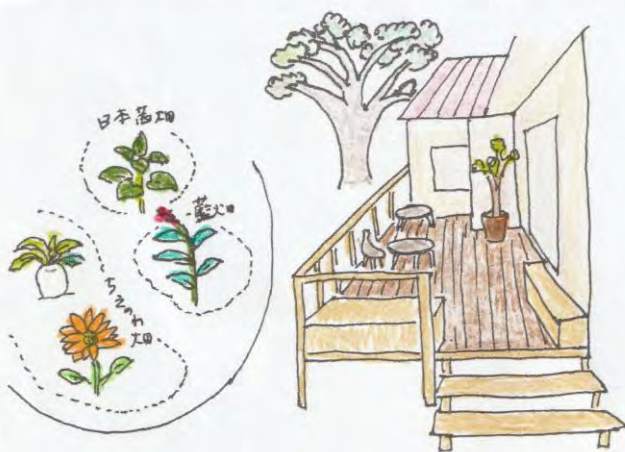
テラス

畑や豊かな緑を見晴らせるテラス

みんなのトイレ

スロープ

車椅子も
ベビーカーも OK !



その他の資料

ぐるーぷ・ちえのわ 紹介

「ぐるーぷ・ちえのわ」は、33年前、戸塚区の小雀小学校個別支援級の子どもたち、親御さんたち、地域の方たちとの、つながりの中から生まれました。その学級に在籍し、3年生の時に重い病から亡くなった「ちえちゃん」を囲む支援の「輪」から、「ちえのわ」と名付けられました。そして、障がいのある人もない人も、共に出会い、楽しい活動ができるようにとの願いから、小雀・大正地区を中心に、キャンプや遊びの集い、地域ケアプラザでのイベントなどを行ってきました。

2006年には、小雀町に民家を借りて、1軒目の「ちえのわホーム」が誕生しました。これは、廉価で借家を賃して下さる大家さんのご厚意と、地元で造園業を営まれている「ちえちゃん」のご両親の尽力により実現したものです。現在4軒のホームを中心に活動を行っています。

こんな活動をしています～まなぶ・遊ぶ・つくります～

4軒の「ちえのわホーム」では、個に応じた学習支援を行う「ちえのわ寺子屋」、不登校の子どもたちへの支援を行う「ちえのわルーム」、特別支援学級・学校の子どもたち、その卒業生たちの余暇活動支援を行う「ちえのわサロン」のほか、地域の幅広い年代の方たちが集う「さをり織り、草木染、陶芸教室・アートくらぶ」などの活動も行っています。今年度はコロナ禍の下、感染予防に留意しながら、少しずつ再開しています。



第2ホーム
サロン
ルーム
寺子屋
2009～

みんなの家
さをり織り
2011～



《ちえのわ・ホーム》
整備が実現したら…

第1ホーム
寺子屋
2006～



2021～
車椅子でも
OK!

アトリエ十色
草木染
陶芸・アート
くらぶ
2017～



地域の皆さんが誰でも集える
居場所として、バリアフリーな
多目的交流スペースに！

(写真はいずれも昨年度までのものです)